

いちごいちえ  
株式会社 一莓一笑



1 現在の経営内容等

(1) 経営理念, キャッチフレーズ等

- お客様がもとめる以上の高品質を。
- 記録と改善で生産性を高める技術を。
- 最適な状態をお届けできる取組みを。
- 変化と多様性に対応する能力を。

(2) 栽培技術の特長

ICT活用による環境と養液などを管理する環境制御システムで、温度や湿度、二酸化炭素の濃度や灌水量、養液量、風向き、日照量をデータ化している。この蓄積したデータと、1週間単位で作成する生育レポートを照合して、いちごの最適な生育環境を研究し、確実に美味しいいちごを生産できるシステムを構築している。また、IPMによる病害虫の総合防除を行っている。

(3) 販売の特長

直売と市場出荷が半々である。また、宮城県内に限定し、収穫したてのいちごを当日に届けるサービスを行っている。このサービスにより、より完熟で新鮮ないちごを消費者に届けることができる。さらに、最適な状態でお客様に届けるためにお客様の用途に応じたパッケージで配送している。

(4) 経営組織の特長

震災後の復興を強く願う20~30代の若者が中心となり、生産から販売まで行っている。また、6次産業化での加工品の開発部門を女性社員が担当するなど、積極的に女性の雇用を図っている。

(5) 労務管理の特長

パート含み全社員を周年雇用しており、社員の生活安定に努めている。そのために、周年で収益性が出るよう、6次産業化で加工品等の商品開発を進めている。

(6) 経営管理の特長

ICT活用や6次産業化に対応可能な、人材育成に取り組んでいる。また、ICT活用の一方便、過去に無い異常気象や機械の故障等に対応できるように、社員の栽培に係る経験の蓄積も重視している。

(7) その他の特長

震災以降、特に若者が地元を離れたことで町の高齢割合が急増している。そのため、若者の雇用を積極的に行い、若者が働ける環境づくりと農業の活性化を図りたいと考えている。

また、地元の福祉施設（障がい者、老人）を招待していちご狩りを実施している。

2 これまでの経過

(1) 法人化するまでの特徴的な歩み

震災以前は個人でいちご生産を行っていたが、震災で施設・設備に甚大な被害を受けた。そのため、国の支援事業である東日本大震災農業生産対策交付金を受け、施設・設備の共同利用を通じて早急に復旧・復興を目指した。

以後、「一粒の苺で一人一人を笑顔にしたい」と願い、復興の志のある若者が集まり、新しい農業のスタイルを模索し、千葉県や群馬県を視察しながら、最新技術や経営を学んだ。

経営のプロフィール

経営概要

・いちご（もういっこ、とちおとめ、よつぼし、8,500㎡、50t）

主な施設・機械の保有

- ・栽培ハウス（8,500㎡）
- ・育苗ハウス（2,500㎡）
- ・環境制御システム
- ・純水製造システム

構成員等

構成員9名、常時雇用9名、パート2名

法人設立年月日

平成24年3月2日

認定農業者認定年月日

平成24年3月27日

資本金

600万円

販売額

5,200万円（平成27年度）

役員名

代表取締役：佐藤 拓実  
取締役：作間 勝視  
取締役：土生 哲也

主な過去の導入事業及び農業制度資金活用

- ・東日本大震災農業生産対策交付金
- ・スーパーL資金
- ・近代化資金

(2) 法人化の動機や法人設立時の特徴的経過、法人化後の変化

震災で被災し、高設養液栽培とICT活用による環境制御システムによるいちご生産の再開を目指し、多額の設備投資や人手の確保の必要性から、法人化を選択した。また、経営の安定や信用力の向上、他産業並みの就業条件の整備を必要とする上で、法人設立が効率的と判断した。そのため、農業改良普及センターや県担い手育成総合支援協議会等の指導・支援を受けながら勉強会を続け、平成24年3月に法人化した。

法人化したことで経営をより重視し、作業性、販売先毎の収益性、新規事業への投資効果を慎重に検討している。また、高設養液栽培により、体の負担が減り作業効率が向上した。また、津波により塩分濃度が高まった土壌を使用せずに済むという利点もあった。

3 今後に向けて

(1) 解決すべき課題と現在検討中(取組中)の対処方策

震災以降、地元の若者の人口流出が大きく、高齢化が加速している。そのため人手の確保と人材育成が最重要課題である。弊社では6次産業化に取り組むことで、雇用の安定化を目指し、社員の商品開発やマーケティング能力の強化に努めている。

(2) 今後に向けての経営戦略

3年後を目処に、「生産から販売まであらゆることが最適になる」ことを目指し、生産・在庫・取引量を最適化するための生産・流通・販売技術を確立する。「当日配達事業」など、従来の生産体系とは異なる新たな事業モデルを考案し、これまでに無い高品質ない

ちごの販売を図る。

(調査：巨理農業改良普及センター)

略図



株式会社 一莓一笑

〒989-2203 巨理郡山元町浅生原新田58  
TEL 050-3805-1518  
FAX 050-3737-1405  
URL <http://ichiichigo.com/>  
E-mail [info@ichiichigo.jp](mailto:info@ichiichigo.jp)

視察受入条件

要相談 視察料 無  
申込先 電話、メール